

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福祉会		
事業所名	大東グループホーム あじさい		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年9月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安全に安心して暮らせるよう心がけている。利用者、家族が話しやすい関係、寄り添える関係作りを目指している。大きな行事は地域の方や家族の協力を得て行い、利用者も家族も地域住民も喜んで頂ける取り組みをしており、毎年の恒例行事に加え民生委員訪問、ホウキソを植えたり、人形劇の見物を行い、近隣の幼児、子供たちとの交流をますます増やしていく努力をしたい。職員は勉強会を行い、利用者のペースに合わせた配慮や、家族と情報共有し問題を一緒に考えていく努力をしている。利用者の作った作品や写真を大切に共感できる場面を作っている。施設としても初の看取りを経験させて頂き、最期を迎え終えたのちでも、家族からの温かい言葉を頂き、利用者からありがとうを言って頂くことで職員の自信と励みにつながっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者と管理者は、「地域あつてのグループホーム」と強く感じており日頃より地域との関わりを積極的に作るよう心がけ、カルチャーホールを地域に開放して、地域住民との交流を深めている。また、職員が利用者へ寄り添う時間を少しでも多く保てるよう業務の工夫に取り組んでいる。職員・家族・医師と協力しながら本人・家族の思いに沿って看取りを体験した。その後、職員の心のケアや今後の方針のためアンケートを行い会議で振り返り、今後の終末期の取り組みにつなげた。運営推進会議では、地域の方が、人手不足の心配や職員の元気な様子を褒めたり、勉強会の資料を提供し、サービスの質の向上への意見を頂くなど、地域から受け入れられたグループホームである。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172100832&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172100832&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成22年8月19日

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中の人間性を尊重するについて今一度振り返り勉強会を行った。勉強会を活かし周知徹底を図っている。事業目標を分かりやすく設定し、より理念に近づけるよう努力している。理念を意識して働いているのか毎月の振り返りを続けた。	管理者と職員は、理念を基に年間事業目標を掲げ、毎月ケアを振り返り、理念の共有と実践に繋げている。また、会議や勉強会などでも理念の周知を図り、笑顔で穏やかに過ごせるケアに取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏まつりや、餅つき大会を開催し、より一層地域住民としてのかかわりを深め、大勢参加して下さるようなつながりを大切にしている。地域の溝さらいや、自治会の参加は、できる限り出席できるように心がけている。	カルチャーホールを地域に開放し、自治会・子供会・少年団が利用し、それらに利用者・職員が参加することもある。幼稚園・小学校とも交流し、ラジオ体操・廃品回収の場の提供、こども110番、溝掃除など地域の一員として役割も果たしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民等の見学を受け入れ、丁寧に説明している。カルチャーホールの使用も徐々に増え、介護予防教室の開催を続け、いきいきサロンや安井の少年団、竹の子会や市役所等に相互理解を深めながら開放している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者参加はもちろん、地域住民方が施設のことを良く見てくださって多くの要望等ももらっている。家族に紙ベースでの配布をし、頂く意見等はサービス向上に活かせるよう努力している。今後は色々な家族に参加して頂けるような配慮をしていきたい。	会議では、利用者の状況や困難事例の相談、日々の取り組みを報告している。地域の方が新聞記事を持参し、最近の問題を検討し運営に活かしている。また、会議の内容を家族に配布して意見や要望の収集と参加を呼びかけている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の方も出席され連携をとっている。会議を通して、他グループホームの取り組みを聞いたり、解決困難事例に対し、その人らしく生活してもらうためにどうすればよいか相談の機会を持っている。	市町村担当者に、保険制度の相談、事業所の実情や取り組みを報告している。困難事例などは、互いに相談し合う関係を築いている。市町村が開催するケアマネジャー会議を事業所のホールで行うなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方法を家族と考えている。玄関の施錠は事務員が見守りできる時は開放している。転落防止にベッドの下にマットを敷いたり、車椅子から立ち上がりのある方に対し終日車椅子でなく、椅子に交換し取り組んでいる。	職員は、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。床にマットを敷いたり、椅子で過ごせるよう利用者へ合ったテーブルを作成するなど、家族と相談して拘束をしない工夫をしている。新人職員には、指導・研修をして正しく理解するよう努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士声をかけあい、気持ちが煮詰まった時は交替するか、離れたりしストレスをためないようにしている。一丸となり、利用者の安全を追及しながら防止に努めている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所連絡会や、情報交換会に参加し、必要な方には直ちに制度が利用できるような支援をしている。家族の今後を見据えて、孫やひ孫まで声をかけたり考えていかなければならない方であれば橋渡しの声をかけている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日頃の疑問点・不明点等、長引く入院や、継続医療、重度化に伴う十分な説明の上、お互いが理解を得られるよう話し合いの機会をもっている。家族が納得できるまで話し合いをし特に退所時を大切にしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	検討項目で改善がない時や、問題については上司に報告連絡相談をし、運営推進会議で現状を話している。利用者・家族より、要望を遠慮なく出していたため意見箱を設置場所を変えより意見が言える環境を整えつつある。	訪問時や行事後の家族アンケートで意見・要望を聞き、意見箱の設置場所を変えるなど苦情など言いやすいよう工夫している。エレベーター内の臭い、掃除をして欲しいなど家族からの意見を活かして運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で提案がある時は前もって検討項目をあげ、意見を出し合い改善できる点において話し合っている。職員の理解のばらつきがあるため、勉強会も取り入れている。上司への報告連絡相談を大切にしている。	代表者や管理者は、職員と日頃から話しやすい関係を築いている。会議の議題を事前に伝え意見・提案を出しやすいようにしている。毎年の職員アンケートでも要望など聞く機会を設け運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	残業を減らす業務改善に取り組み、体力的にきつい勤務や有給等は把握し勤務を組み続けたい。仕事上の問題や悩みは話し合いをし解決できるように努力したい。長く働いていただけよう日々コミュニケーションを図って、声を出していきたいと考えている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修に力を入れ、日常的に学ぶことを心がけ、資格習得、自己達成に努力している。受けた研修は会議で発表の場を設けている。資格取得希望者には配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会、支援会議や情報交換会に参加し、質の向上につなげている。認知症地域支援構築等推進事業では大垣市がモデル地区となったため普及事業を行ったり、今年度より複数事業所連携事業にも取り組みを進めつつある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取り調査や面談時、その方の生き様を家族からも十分に聞き取り、その生活を維持できるよう理解している。生き様を知る努力を重ね、人生史質問リストを作り家族に協力を仰ぎ、コミュニケーションを図っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居後は特に家族の意見を聞き、お互いが不明な点が理解できるように努めている。まずは1ヶ月しっかりコミュニケーションをし生活が落ち着くまで話し合いをもち、面会をこまめにお願ひすることで、お互いが良い状態を継続できるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在までに関わってこられた介護支援専門員との連絡を行い随時対応している。出来ること・分かることを見極め、出来ない事や分からないことを支援できるように心がけている。また、嫌な事や拒否される事は徐々に寄り添えるようにしていきたい。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	頼り頼られながら共に過ごしている。写真が好きな方、自治会長だった方、踊りがうまい方等ユニットに居場所が出来ような配慮をしている。どこに行きたいか、何を食べたいか等利用者や決めたりしている。利用者同志励まし合ったり、助け合う姿は学ぶべき姿である。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスには必ず参加して頂けるよう声をかけ、平日や土日等に家族の都合に合わせて開催している。認知症の理解を深め、アンケートや家族会を実施し処遇面や職員に対し何か意見がないかもらっている。気がねなく言ってもらえる関係を保っていききたい。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで関わってこられた関係を断ち切らないように面会は自由にして頂くことを大切にしている。家族の協力を仰ぎ行きつけの床屋や、馴染みの店、映画が見たいという希望に対し相談し協力していただいている。	職場の友達、知人が訪ねてきたり、行きつけの床屋・商店などに出かけている。また、墓参り・コンサート・書道展・映画に出かけるなど家族の協力を得ながら馴染みの関係が継続出来るよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志仲間意識が高く、支え合い関わりを深めている。立ったら危ないよ、何かやるとるよと声をかけてくれる事で危険回避出来ている事があり助かっている。主人公の利用者がいきいき過ごせるよう職員は黒子として支援するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その時の状況で一番良い方法を家族と話し合っている。退所後も医療機関との連携をとり、関わりを必要とされている家族には相談にのり、付き合いを大切にしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今出来ている事や好きな事、やりたいと思っている事に対し、可能な範囲で意向に添う努力をしている。思いを大切に居場所が出来るような対応に心がけている。	利用者の様子を見て、優しい言葉かけや寄り添うことで思いや意向の把握をしている。また、困難な場合は、目線・表情など小さなサインを見逃さないよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集で生活歴やなじみの関係の把握をしている。家族と会話し交流を深める努力をし、新たな気付きも含め職員間でセンター方式シートや連絡ノート等活用し共有出来るよう努力している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方のいいように生活をしていただけるよう、目配り気配りに努めている。当日のリーダーを決め事故のないように現状把握に努めている。見守ることの大切さを理解し、口を出さない、手を出さない、目は離さないの関わりを持てるよう心がけている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族に要望や希望や不明な点を聞き、暮らしの中であがるひやりとしたことや事故、課題の共有に心がけている。常に一番の問題点はどこにあるのか日々考えながら業務に励んでいる。	本人・家族は、希望や要望を介護計画書に直接記入して、カンファレンスにも参加している。ユニット内で話し合った職員の意見を取り入れ介護計画を作成している。変化が生じた場合は、医師など必要な関係者の意見も取り入れ作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体のこと、ひやりハットや事故等は赤ペンで記入し再発防止、家族連絡を欠かさず行えるよう努力している。全体用・利用者用と分けた連絡ノートの活用し変化等があれば共通ケアができるように心がけている。しかし周知徹底には課題が残る。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本体施設へ気分転換の必要性や法話行事にも参加している。家族や利用者の希望や状況を判断しながら、場合によりスムーズに利用に繋げたり柔軟に対応している。満床の時は他事業所の紹介連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道や紙芝居、散髪の協力を頂いている。新しく利用したい店、近所のスーパー、飲食店を活用する事の協力を得て増やし続けている。認知症について理解していただく為に福祉推進委員、近隣の方に挨拶を心がけている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別の主治医を持ち家族協力のもと、受診や往診を受けている。連携を取り合い、必要であれば受診に同行するなど情報提供を行っている。また、主治医の変更や他科受診も必要に応じて声をかけている。	これまでの関係や繋がりを継続して、個別のかかりつけ医を受診している。かかりつけ医が遠い利用者は、家族と相談の上往診が可能なかかりつけ医に変更している。受診時は、家族が付き添いその後、看護師が結果を聞き情報の共有を図っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自己の体調を整え、利用者の変化に注意し申し送りをしている。もちこまない、ひろげない、かからないを念頭に置き、感染症や緊急時は対応できるよう勉強会やマニュアルの見直しを現状に即していきたい。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け何回か面会したり話し合いをし働きかけている。医師が家族との面談時はなるべく看護師も参加している。退院後の生活についても納得できるまで話し変わりゆく状態を検討している。退院後はカンファレンスをしケア方針を決めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初めて看取りをさせていただいた。何度も話し合いを持ち家族の思いや、利用者が日常会話から最期をどのようにしたいのか記録に残したり把握する事が大切と感じている。職員一丸となって取り組み、その人らしい終末期を考慮したい。	今回初めて看取りを行った。6ヶ月位前より家族・職員と看取りについて話し合いを繰り返し行った。本人の思いを尊重し、状況の変化の都度、家族の要望を聞き、医師・看護師と連携を図り家族に納得が得られるよう説明しながら全職員で取り組んだ。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	委員会を中心に事故、防災の緊急時マニュアルを見直し、勉強会に取り組んでいる。職員の理解にばらつきがあるため熟知には今後も励みたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーに頼らず安全に早く動けるよう、昼夜想定で召集、初期消火、通報、避難訓練をしている。通勤時の危険箇所の把握や、自分自身で考えて行動できるようにと事業目標もたてた。何かあれば助けていただけよう近隣の方には挨拶を心がけている。	1月末にスプリンクラーの設置が完了した。法人全体を含め年3回の避難訓練を利用者と共に実施している。また、夜間想定も行い、休みの職員も参加している。運営推進会議で地域住民の参加を呼びかけているが、参加が得られていない。	自治会の防災訓練に利用者と共に参加したり近隣防災協定を結ぶなど、地域との繋がりが出来ているので、今後地域住民の参加協力が得られるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアプランに基づく名前呼び、ちゃん付けやあだ名で呼んでいる時は注意しあう体制を心がけている。利用者が分かる声かけをし思いやりのある言葉で接していく努力をしていきたい。記録等は見える所で書いたり置いたりしない配慮が必要である。	トイレ誘導は、他の利用者に聞かれないよう、場を離れ個々に声かけし、扉の開け放しのないよう心がけている。また、日々の生活の中でその人にとって分かり易い言葉、尊厳を損ねない言葉で話すよう勉強会で話し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のいいように過ごして頂けるよう努力している。くどい説明をしたり、無理に納得させる配慮が足りないので気をつけたい。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日中は困難である。なるべく意思や希望を大切に、自身のペースで生活ができるよう、また自由に選べる体制をとり、ゆったりした生活が送れるような対応を心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容室を利用している方もみえる。毎日のお化粧品、懐中時計、お守り、指輪をはめてみえる方、普段着と外出着とわけたり、名刺を持ち背広やカッターシャツを着て仕事をしている思いの強い方、夏は甚平と決めてみえる方、思うようにして頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調不良やメインが駄目な方は考えて提供している。力を発揮できる場所で分担し手伝っていただいている。好評だったものや改善が必要なものは給食会議で意見をだし今後活かしている。重度化対応でゼリー、ムース食の検討もしている。	利用者は、おかずの盛り付けや後かたづけと一緒にやっている。毎月給食会議で利用者の嗜好や状態による食事形態、味付けなど検討している。また、畑で作った野菜を使ったり、好評だったメニューを取り入れ楽しく食事が出来るよう工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼、嚥下、ムセ等気付きにも注意している。体重の増減を把握し個々にあわせ看護師と申し送りをしている。補食が必要であるときは、家族と相談し食べれるものを持ってきて頂いたりしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ支援にて気を配っている。ハミングットや舌苔用ブラシ、360度歯ブラシを個々に合わせ使用している。本体と協同で歯科衛生士との話し合いや勉強会を持ち始めつつある。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンを把握し個々に対応している。無理な誘導にならない配慮をしたい。必要以外やギリギリまでオムツを使わない努力をしている。かぶれやオムツ外しには回数を変えたり、洗浄し個別に対応し使い分けその方にあった方法をいつも模索し努力している。	一人ひとりのサインを見逃さず見守り、立ち上がったタイミングでトイレ誘導している。昼間は出来る限り布パンツを使用し、夜間も利用者の状態に合わせ無理やりトイレ誘導することなく、オムツやパットの種類を変えて対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスよく食事を採って頂きお手伝いにて身体を動かしている。まずは寒天、ビオ、牛乳、ヤクルト、食物繊維強化食品等の自然食品でお通じにつなげられるよう便秘予防に心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員の希望は難しい。夜間、時間、回数等の幅を広げる努力をしている。体調が悪く長期にわたり入浴困難者は医師と相談し決めたり、部分浴、毎日の陰洗をしている。無理強いすることなく入っていただけるような配慮を続けたい。	利用者の希望を聞き、回数・時間・昼夜等個別の支援をしている。勤務時間を調整して夜間入浴も対応出来るようにした。入浴を拒む利用者には、家族の面会時に脱衣を手伝ってもらったり、言葉かけ、就寝前の足浴など工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体を動かしたり、行事参加や散歩、外出を行い生活リズムの改善に心がけている。昼夜問わず休息できる支援をしている。夜間は体位交換以外、必要以上のトイレ誘導を行わず、安眠できるよう心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に内服が可能なように医療連携を図っている。常にどのような薬を服薬されているか把握に努めるようにしている。新しい処方箋をカルテに綴じ、変更が分かるように申し送り確認している。誤配薬に気をつけたい。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力を発揮できるところで進んで手伝いをさせていただいている。自ら進んで衣替えしなあかんね、掃除してくると居室内のことをされるようになり、家事仕事をされる一面が見られる。花を届け四季を感じて頂けるような配慮をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月行事に加え、幼保園児とのふれあいの場をもうけたり、家族の協力を得て大垣祭りを見物したり、季節の花を見に外出の機会を多くし気分転換をしている。利用者が行きたい所の情報を取り入れる努力をしている。急な訴えに対応できるような配慮が必要である。	日常的に近所に散歩に出かけ、幼・保育園の行事や小学校の運動会などに参加している。また、季節毎に藤や紫陽花・ひまわりなど花見に出かけしている。利用者の急な申し出には、職員が一对一に対応することもある。今年の大垣祭りには、ほぼ全員の家族と一緒に出かけている。	



大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材や日用品を一緒に買いに行き、金銭管理の出来るよう買物時は、各自の財布を持ち楽しめるよう支援をしている。お金を払う、おつりを貰うという行為は個々に対応し楽しめるよう支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不安な時や好きなきに、電話がいつでも掛けられるように支援している。こちらからも本人の安定を保つため、定期的な家族よりの電話をもらう事で精神安定を保っている。年賀状は欠かさず行い楽しみとしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭い中ではあるが、食事の場と憩いの場を分けている。席配置換えも気分転換を図り、新たな交流や仲間作りが出来るよう配慮している。季節の花を活けたり、作品や行事の写真を掲示し飾り付けをしている。	食堂や廊下は明るく、行事の写真・生け花・手作りの小物など季節感を取り入れている。カルチャーホールの畳スペースは、食後昼寝をする事もできる。掃除専門の職員が共有の場所を毎日掃除し、臭いもなく清潔で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールを開放し利用者が思いのまま、のんびり過ごすことが出来ている。常に人の気配を感じられる空間の中で、安心して過ごせるように配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に合わせ、新しいもの、使い慣れたものを使用し、タンスや椅子などを持参していただき居心地のよい生活空間になっている。捨てられたと思うような環境は避けている。空調整備したり、冷暖房が直接当たらないように配慮した環境作りをしている。	使い慣れた和筆筒・鏡台・椅子などを持参して自宅に近い居室作りを心がけている。畳が好きな利用者の居室には畳を敷き、季節によりベッドの位置を変えるなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レベルが低下しても使用できる設備があり、利用者の生活を日々考えつつ、力を発揮できるところで自立した生活が送れるよう配慮している。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福祉会		
事業所名	大東グループホーム すずらん		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年9月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172100832&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172100832&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成22年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中の人間性を尊重するについて今一度振り返り勉強会を行った。勉強会を活かし周知徹底を図っている。事業目標を分かりやすく設定し、より理念に近づけるよう努力している。理念を意識して働いているのか毎月の振り返りを続けたい。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏まつりや、餅つき大会を開催し、より一層地域住民としてのかかわりを深め、大勢参加して下さるようなつながりを大切にしている。地域の溝さらいや、自治会の参加は、できる限り出席できるように心がけたい。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民等の見学を受け入れ、丁寧に説明している。カルチャーホールの使用も徐々に増え、介護予防教室の開催を続け、いきいきサロンや安井の少年団、竹の子会や市役所等に相互理解を深めながら開放している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者参加はもちろん、地域住民方が施設のことを良く見てくださって多くの要望等ももらっている。家族に紙ベースでの配布をし、頂く意見等はサービス向上に活かせるよう努力している。今後は色々な家族に参加して頂けるような配慮をしていきたい。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の方も出席され連携をとっている。会議を通して、他グループホームの取り組みを聞いたり、解決困難事例に対し、その人らしく生活してもらうためにどうすればよいか相談の機会を持っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方法を家族と考えている。玄関の施錠は事務員が見守りできる時は開放している。転落防止にベッドの下にマットを敷いたり、車椅子から立ち上がりのある方に対し終日車椅子でなく、椅子に交換し取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士声をかけあい、気持ちが煮詰まった時は交替するか、離れたりストレスをためないようにしている。一丸となり、利用者の安全を追及しながら防止に努めている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所連絡会や、情報交換会に参加し、必要な方には直ちに制度が利用できるような支援をしている。家族の今後を見据えて、孫やひ孫まで声をかけたり考えていなくてはならない方であれば橋渡しの声をかけている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日頃の疑問点・不明点等、長引く入院や、継続医療、重度化に伴う十分な説明の上、お互いが理解を得られるよう話し合いの機会をもっている。家族が納得できるまで話し合いをし特に退所時を大切にしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	検討項目で改善がない時や、問題については上司に報告連絡相談をし、運営推進会議で現状を話している。利用者・家族より、要望を遠慮なく出していただくため意見箱を設置場所を変えより意見が言える環境を整えつつある。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一年に一度法人のアンケートを実施している。出た意見を全体会議でフィードバックし運営に活かしている。また、今年度より全職員へのヒヤリングが開始され意見の反映をしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働ける条件をできる範囲で呑んでいる。有給はなかなか取れないが皆と協力して業務に取り組んでいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修に力を入れ、日常的に学ぶことを心がけ、資格習得、自己達成に努力している。受けた研修は会議で発表の場を設けている。資格取得希望者には配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会、支援会議や情報交換会に参加し、質の向上につなげている。認知症地域支援構築等推進事業では大垣市がモデル地区となったため普及事業を行ったり、今年度より複数事業所連携事業にも取り組みを進めつつある。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取り調査や面談時、その方の生き様を家族からも十分に聞き取り、その生活を維持できるよう理解している。生き様を知る努力を重ね、人生史質問リストを作り家族に協力を仰ぎ、コミュニケーションを図っている。	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居後は特に家族の意見を聞き、お互いが不明な点が理解できるように努めている。まずは1ヶ月しっかりコミュニケーションをし生活が落ち着くまで話し合いをもち、面会をこまめにお願いくことで、お互いが良い状態を継続できるよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在までに関わってこられた介護支援専門員との連絡を行い随時対応している。出来ること・分かることを見極め、出来ない事や分からないことを支援できるように心がけている。また、嫌な事や拒否される事は徐々に寄り添えるようにしていきたい。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	頼り頼られながら共に過ごしている。写真が好きな方、自治会長だった方、踊りがうまい方等ユニットに居場所が出来よう配慮をしている。どこに行きたいか、何を食べたいか等利用者と決めたりしている。利用者同志励まし合ったり、助け合う姿は学ぶべき姿である。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスには必ず参加して頂けるよう声をかけ、平日や土日等に家族の都合に合わせて開催している。認知症の理解を深め、アンケートや家族会を実施し処遇面や職員に対し何か意見がないかもらっている。気がねなく言ってもらえる関係を保っていききたい。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで関わってこられた関係を断ち切らないように面会は自由にして頂くことを大切にしている。家族の協力を仰ぎ行きつけの床屋や、馴染みの店、映画が見たいという希望に対し相談し協力していただいている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志仲間意識が高く、支え合い関わりを深めている。立ったら危ないよ、何かやるとるよと声をかけてくれる事で危険回避出来ている事があり助かっている。主人公の利用者がいきいき過ごせるよう職員は黒子として支援するよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その時の状況で一番良い方法を家族と話し合っている。退所後も医療機関との連携をとり、関わりを必要とされている家族には相談にのり、付き合いを大切にしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今出来ている事や好きな事、やりたいと思っている事に対し、可能な範囲で意向に添う努力をしている。思いを大切にし居場所が出来るような対応に心がけている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集で生活歴やなじみの関係の把握をしている。家族と会話し交流を深める努力をし、新たな気付きも含め職員間でセンター方式シートや連絡ノート等活用し共有出来るよう努力している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方のいいように生活をしていただけるよう、目配り気配りに努めている。当日のリーダーを決め事故のないように現状把握に努めている。見守ることの大切さを理解し、口を出さない、手を出さない、目は離さないの関わりを持てるよう心がけている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族に要望や希望や不明な点を聞き、暮らしの中であがるひやりとしたことや事故、課題の共有に心がけている。常に一番の問題点はどこにあるのか日々考えながら業務に励んでいる。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体のこと、ひやりハットや事故等は赤ペンで記入し再発防止、家族連絡を欠かさず行えるよう努力している。全体用・利用者用と分けた連絡ノートの活用をし変化等があれば共通ケアができるように心がけている。しかし周知徹底には課題が残る。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本体施設へ気分転換の必要性や法話行事にも参加している。家族や利用者の希望や状況を判断しながら、場合によりスムーズに利用に繋げたり柔軟に対応している。満床の時は他事業所の紹介連携を図っている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道や紙芝居、散髪の協力を頂いている。新しく利用したい店、近所のスーパー、飲食店を活用する事の協力を得て増やし続けている。認知症について理解していただく為に福祉推進委員、近隣の方に挨拶を心がけている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別の主治医を持ち家族協力のもと、受診や往診を受けている。連携を取り合い、必要あれば受診に同行するなど情報提供を行っている。また、主治医の変更や他科受診も必要に応じて声をかけている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自己の体調を整え、利用者の変化に注意し申し送りをしている。もちこまない、ひろげない、かからないを念頭に置き、感染症や緊急時は対応できるよう勉強会やマニュアルの見直しを現状に即していきたい。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け何回か面会したり話し合いをし働きかけている。医師が家族との面談時はなるべく看護師も参加している。退院後の生活についても納得できるまで話し変わりゆく状態を検討している。退院後はカンファレンスをしケア方針を決めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の願いや希望、家族や親族に及び話し合いを幾度か設け調整し看取ることができた。主治医を往診のできる医師に変更したり、以前の主治医と連携をとるのに難しい問題もあったが乗り切ることができた。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	委員会を中心に事故、防災の緊急時マニュアルを見直し、勉強会に取り組んでいる。職員の理解にばらつきがあるため熟知には今後も励みたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーに頼らず安全に早く動けるよう、昼夜想定で召集、初期消火、通報、避難訓練をしている。通勤時の危険箇所の把握や、自分自身で考えて行動できるようにと事業目標もたてた。何かあれば助けていただけるよう近隣の方には挨拶を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声かけを行っている。周囲にトイレと分からないような配慮に心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	同じ目線で話かけ、利用者に合う理解できる言葉で話したり、筆談をしコミュニケーションをはかっている。自己決定ができる環境を整えたい。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	信仰している本をゆっくり読んでいただいたり、本体施設へ法話に参加し支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容室を利用している方もみえる。毎日のお化粧品、懐中時計、お守り、指輪をはめてみえる方、普段着と外出着とわけたり、名刺を持ち背広やカッターシャツを着て仕事をしている思いの強い方、夏は甚平と決めてみえる方、思うようにして頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調不良やメインが駄目な方は考えて提供している。力を発揮できるところで分担し手伝っていただいている。好評だったものや改善が必要なおかずは給食会議で意見をだし今後活かしている。重度化対応でゼリー、ムース食の検討もしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼、嚥下、ムセ等気付きにも注意している。体重の増減を把握し個々にあわせ看護師と申し送りをしている。補食が必要であるときは、家族と相談し食べれるものを持ってきて頂いたりしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ支援にて気を配っている。ハミングットや舌苔用ブラシ、360度歯ブラシを個々に合わせ使用している。本体と協同で歯科衛生士との話し合いや勉強会を持ち始めつつある。		



大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便時の陰部洗浄、パットの種類を変更し考え、また昼夜の使い分けをし対応中である。排便のサインに気付けいち早く対応をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスよく食事を採って頂きお手伝いにて身体を動かしている。まずは寒天、ピオ、牛乳、ヤクルト、食物繊維強化食品等の自然食品でお通じにつなげられるよう便秘予防に心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員の希望は難しい。夜間、時間、回数等の幅を広げる努力をしている。体調が悪く長期にわたり入浴困難者は医師と相談し決めたり、部分浴、毎日の陰洗をしている。無理強いすることなく入っていただけるような配慮を続けたい。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体を動かしたり、行事参加や散歩、外出を行い生活リズムの改善に心がけている。昼夜問わず休息できる支援をしている。夜間は体位交換以外、必要以上のトイレ誘導を行わず、安眠できるよう心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に内服が可能なように医療連携を図っている。常にどのような薬を服薬されているか把握に努めるようにしている。新しい処方箋をカルテに綴じ、変更が分かるように申し送り確認している。誤配薬に気をつけたい。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事の得意な方には、野菜の苗を植えたり草むしりを率先して行って頂いている。俳句の好きな方は、行事で一句お願いすることで得意分野で力の発揮をされ過ごされている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月行事に加え、幼保園児とのふれあいの場をもうけたり、家族の協力を得て大垣祭りを見物したり、季節の花を見に外出の機会を多くし気分転換をしている。利用者が行きたい所の情報を取り入れる努力をしている。急な訴えに対応できるような配慮が必要である。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材や日用品を一緒に買いに行き、金銭管理の出来るよう買物時は、各自の財布を持ち楽しめるよう支援をしている。お金を払う、おつりを貰うという行為は個々に対応し楽しめるよう支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いたらすぐに返事を書けるようにはがきの準備をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て四季の花々を飾っていただけ、室内でも季節を感じて頂ける配慮をしている。利用者の姿勢に合わせた手作りの机を用意し環境設定に心がけている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カルチャーホールで利用者が思いのまま畳で横になったり、窓から野菜や花の成長をみてのんびり過ごすことが出来ている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に合わせ、新しいもの、使い慣れたものを使用し、タンスや椅子などを持参していただき居心地のよい生活空間になっている。捨てられたと思うような環境は避けている。空調整備したり、冷暖房が直接当たらないように配慮した環境作りをしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レベルが低下しても使用できる設備があり、利用者の生活を日々考えつつ、力を発揮できる場所で自立した生活が送れるよう配慮している。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100832		
法人名	社会福祉法人 大東福祉会		
事業所名	大東グループホーム なでしこ		
所在地	岐阜県大垣市東前1丁目86番地		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年9月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172100832&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172100832&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成22年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中の人間性を尊重するについて今一度振り返り勉強会を行った。勉強会を活かし周知徹底を図っている。事業目標を分かりやすく設定し、より理念に近づけるよう努力している。理念を意識して働いているのか毎月の振り返りを続けたい。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏まつりや、餅つき大会を開催し、より一層地域住民としてのかかわりを深め、大勢参加して下さるようなつながりを大切にしている。地域の溝さらいや、自治会の参加は、できる限り出席できるように心がけたい。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民等の見学を受け入れ、丁寧に説明している。カルチャーホールの使用も徐々に増え、介護予防教室の開催を続け、いきいきサロンや安井の少年団、竹の子会や市役所等に相互理解を深めながら開放している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者参加はもちろん、地域住民方が施設のことを良く見てくださって多くの要望等をもらっている。家族に紙ベースでの配布をし、頂く意見等はサービス向上に活かせるよう努力している。今後は色々な家族に参加して頂けるような配慮をしていきたい。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の方も出席され連携をとっている。会議を通して、他グループホームの取り組みを聞いたり、解決困難事例に対し、その人らしく生活してもらうためにどうすればよいか相談の機会を持っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	特に新人職員に対しての指導に努める必要性が高い。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士声をかけあい、気持ちが煮詰まった時は交替するか、離れたりリストレスをためないようにしている。一丸となり、利用者の安全を追及しながら防止に努めている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所連絡会や、情報交換会に参加し、必要な方には直ちに制度が利用できるような支援をしている。家族の今後を見据えて、孫やひ孫まで声をかけたり考えていなくてはならない方であれば橋渡しの声をかけている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日頃の疑問点・不明点等、長引く入院や、継続医療、重度化に伴う十分な説明の上、お互いが理解を得られるよう話し合いの機会をもっている。家族が納得できるまで話し合いをし特に退所時を大切にしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	検討項目で改善がない時や、問題については上司に報告連絡相談をし、運営推進会議で現状を話している。利用者・家族より、要望を遠慮なく出していただくため意見箱を設置場所を変えより意見が言える環境を整えつつある。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で提案がある時は前もって検討項目をあげ、意見を出し合い改善できる点において話し合っている。職員の理解のばらつきがあるため、勉強会も取り入れている。上司への報告連絡相談を大切にしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の長所に重点を置き、認め合う事で良好な関係作りで業務に臨めるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に応じ研修の実施、個々のスキルアップにつながるよう、発表の場を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会、支援会議や情報交換会に参加し、質の向上につなげている。認知症地域支援構築等推進事業では大垣市がモデル地区となったため普及事業を行ったり、今年度より複数事業所連携事業にも取り組みを進めつつある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が何を望み、困っているのか一番に考え、一つ一つ解決できるところから対応をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一緒に考え悩み、安心して話せる雰囲気を作り共感できるよう取り組んでいる。家族の意向も十分理解できるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が良い方法か考え実現できるように提案し説明している。今後の方向性や将来のことも含め対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状態にあわせ、心身の維持や持つ力の向上できることを心がけている。時には一歩引き自然に生活できるような関係を作っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報提供し、お互いが共有することで理解を得ている。必要時には協力していただき要請し助けていただいている。足を運びやすい雰囲気に努め働きかけを絶やさないようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生きがいや楽しみを持てるよう関わりの深い方への来設を家族に働きかけている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志仲間意識が高く、支え合い関わりを深めている。立ったら危ないよ、何かやるとるよと声をかけてくれる事で危険回避出来ている事があり助かっている。主人公の利用者がいきいき過ごせるよう職員は黒子として支援するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その時の状況で一番良い方法を家族と話し合っている。退所後も医療機関との連携をとり、関わりを必要とされている家族には相談にのり、付き合いを大切にしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	小さなサインを見逃さず、記録に残し言動や行動を場面で引き出せるよう努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	知りえた情報の中で不明な点は話し合い、自然の流れで生活が始まるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや報告事項、不明な箇所は質問しそのままとせず、把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その方らしい生活に近づけるよう日頃の様子を観察し少しでも自立支援を促していくことを盛り込んでいる。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	不規則な勤務状態のためカルテを読む時間を見つけ把握に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本体施設へ気分転換の必要性や法話行事にも参加している。家族や利用者の希望や状況を判断しながら、場合によりスムーズに利用に繋げたり柔軟に対応している。満床の時は他事業所の紹介連携を図っている。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を十分に把握していないが新しい場所を探し続けている。新しく傾聴の方や人形劇の方が来設していただいた。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別の主治医を持ち家族協力のもと、受診や往診を受けている。連携を取り合い、必要あれば受診に同行するなど情報提供を行っている。また、主治医の変更や他科受診も必要に応じて声をかけている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自己の体調を整え、利用者の変化に注意し申し送りをしている。もちこまない、ひろげない、かからないを念頭に置き、感染症や緊急時は対応できるよう勉強会やマニュアルの見直しを現状に即していきたい。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け何回か面会したり話し合いをし働きかけている。医師が家族との面談時はなるべく看護職も参加している。退院後の生活についても納得できるまで話し変わりゆく状態を検討している。退院後はカンファレンスをしケア方針を決めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	尊厳ある安らかな最期を目指した。その後の職員の心のケアやスキルアップを目指すため、アンケートや会議で振り返りの時間を設けた。様々な思いを共感し寄り添える関係の大切さが学べた。今後の看取りへのステップアップとしてつなげていきたい。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃よりイメージトレーニングに力を入れている。気づきを大切にKYTに取り組んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリングラーに頼らず安全に早く動けるよう、昼夜想定で召集、初期消火、通報、避難訓練をしている。通勤時の危険箇所の把握や、自分自身で考えて行動できるようにと事業目標もたてた。何かあれば助けていただけるよう近隣の方には挨拶を心がけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	皆の前で話しにくいことは場を離れ部屋でゆっくり聞けるように環境を整えている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	最低限守ってほしいことは常々お願いし、協力を頂いている。その代わりに代替支援を考えつつ業務に取り組んでいる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事仕事を一緒にする中、一人の方に集中するのではなく、お互いが助け合い生活している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みのものや、色を知り選べるよう支援している。普段着と外出着を分けたり対応している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	体調不良やメインが駄目な方は考えて提供している。力を発揮できるところで分担し手伝っていただいている。好評だったものや改善が必要なものは給食会議で意見をだし今後に活かしている。重度化対応でゼリー、ムース食の検討もしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼、嚥下、ムセ等気付きにも注意している。体重の増減を把握し個々にあわせ看護師と申し送りをしている。補食が必要であるときは、家族と相談し食べれるものを持ってきて頂いたりしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ支援にて気を配っている。ハミングットや舌苔用ブラシ、360度歯ブラシを個々に合わせ使用している。本体と協同で歯科衛生士との話し合いや勉強会を持ち始めつつある。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンを把握し個々に対応している。無理な誘導にならない配慮をしたい。必要以外やギリギリまでオムツを使わない努力をしている。かぶれやオムツ外しには回数を変えたり、洗浄し個別に対応し使い分けその方にあった方法をいつも模索し努力している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスよく食事を採って頂きお手伝いにて身体を動かしている。まずは寒天、ピオ、牛乳、ヤクルト、食物繊維強化食品等の自然食品でお通じにつなげられるよう便秘予防に心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員の希望は難しい。夜間、時間、回数等の幅を広げる努力をしている。体調が悪く長期にわたり入浴困難者は医師と相談し決めたり、部分浴、毎日の陰洗をしている。無理強いすることなく入っていただけるような配慮を続けたい。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動や離床を心がけ、夜眠れる支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に内服が可能なように医療連携を図っている。常にどのような薬を服薬されているか把握に努めるようにしている。新しい処方箋をカルテに綴じ、変更が分かるように申し送り確認している。誤配薬に気をつけたい。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力を発揮できるところで進んで手伝いをさせていただいている。自ら進んで衣替えしなあかんね、掃除してくると居室内のことをされるようになり、家事仕事をされる一面が見られる。花を活け四季を感じて頂けるような配慮をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月行事に加え、幼保園児とのふれあいの場をもうけたり、家族の協力を得て大垣祭りを見物したり、季節の花を見に外出の機会を多くし気分転換をしている。利用者が行きたい所の情報を取り入れる努力をしている。急な訴えに対応できるような配慮が必要である。		

大東グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材や日用品を一緒に買いに行き、金銭管理の出来るよう買物時は、各自の財布を持ち楽しめるよう支援をしている。お金を払う、おつりを貰うという行為は個々に対応し楽しめるよう支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不安な時や好きなどきに、電話がいつでも掛けられるように支援している。こちらからも本人の安定を保つため、定期的な家族よりの電話をもらう事で精神安定を保っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭い中ではあるが、食事の場と憩いの場を分けている。席配置換えも気分転換を図り、新たな交流や仲間作りが出来るよう配慮している。季節の花を活けたり、作品や行事の写真を掲示し飾り付けをしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールを開放し利用者が思いのまま、のんびり過ごすことが出来ている。常に人の気配を感じられる空間の中で、安心して過ごせるように配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に合わせ、新しいもの、使い慣れたものを使用し、タンスや椅子などを持参していただき居心地のよい生活空間になっている。捨てられたと思うような環境は避けている。空調整備したり、冷暖房が直接当たらないように配慮した環境作りをしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の前に大きく見やすくし名前を貼り見やすくしている。		